

第3期という時代と、これからの小野ゼミ生たちへ

第3期ゼミ長 高木 研太郎

OB,OGの皆様、そして現役生の皆様、こんにちは。第3期ゼミ長の高木です。現在はアクセンチュア株式会社戦略グループにてコンサルティングの仕事についています。ここでは簡単に第3期がどのような時期だったかを振り返り、今後の小野ゼミに対する簡単なメッセージを伝えさせて頂こうと思います。

私が所属していた小野ゼミ第3期は、マーケティングゼミらしく製品ライフサイク



2003年夏合宿

ルで言えばまさに「成長期」に入ったところだと思っています。先生と共に第1期、第2期の先輩方が苦勞してゼミを立ち上げ、小野ゼミのカラーを作り上げてくださったおかげで、我々第3期がゼミに入る時にはすでに有名な「エグゼミ」の地位が確立されていました。ある程度確立されたブランドイメージ、環境の中でゼミ生活をスタートさせた第3期ですが、やはり個性豊かな先輩方に選ばれただけあり、3期生も十分に個性豊かで、自身の意見を強く持っている集団でした。ですが、それと同時にある程度共通の方向性に向かうための協調性も持ちあわせた人間が集まっていました。

そのような特徴を持った集団だったため、ゼミの方向性を決める議論などは毎回白熱しましたが、大きな混乱には至らずある程度議論したら答えを出して先に進むという、安定したゼミ運営が成り立っていた時期だったと思います。また、ゼミ運営が安定しているだけではなく、早稲田大学の学園祭におけるディベート大会最優秀チーム賞獲得や、電通論文第1位受賞、ゼミ生の多くが有名企業に就職するなど、1期生から続いてきたゼミ活動の結果が形となって大きく出始めた時期だったと認識しています。

これからの小野ゼミ生に向けたメッセージですが、やはりブランドゼミの構築を目指して頑張ってもらいたいと思います。一度先生が海外留学なされ、第5期生はまた「導入期」に立ち戻ってしまった面もあるとは思いますが、ゼミ生全員で一歩ずつ前進していき、着実に結果を積み重ねていくことによって、再度大きな「成長期」を生み出し、小野ゼミの存在が非常に大きなものにできると確信しています。

4代続いてきた小野ゼミの伝統の中で吸収すべきものは大いに吸収してもらい、新たに組みたいものについては、積極的に取り組んでもらい、「慶應に小野ゼミあり」とどの学部の人間にも、あるいは他大学からも言われるような存在を目指して、日々研究に励んで欲しいと思います。我々OB、OGも可能な限り全力でサポートしていくので、小さなことでも気にせずいつでも声をかけてください。小野ゼミの更なる発展を心より楽しみにしています。